道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 22 年度　第２号　　2010 年 12 月 7 日

北海道立総合研究機構　栽培水産試験場　調査研究部
TEL：0143-22-2327　FAX：0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- 調査期間：平成 22 年 11 月 24～27 日
- 調査海域：道南太平洋の水深 100～500ｍの海域

なお、スケトウダラニュースは PDF ファイルとして栽培水産試験場ホームページからもご覧になれます（ホームページには 12 月 10 日頃に掲載する予定です）。

http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/saibai/suketoudara.htm

・スケトウダラの海域平均の反応量は、前年度を下回った。
・魚群反応は胆振沖（登別～鵡川沖）が中心、渡島沖の反応は胆振沖と比較するとやや弱い。
・反応の比較的強い水深は 350ｍ前後であるが、300ｍ以深の反応は海底からやや浮いた反応。また、登別沖では水深 100ｍ以浅にも魚群反応がみられた。
・漁獲物の体長（尾叉長）は、水深約 70ｍで漁獲されたスケトウダラでは 45cm 前後の成魚主体。水深約 230ｍで漁獲されたスケトウダラでは 40cm 台前半の成魚に 30cm 台前半の未成魚が混じった。

１．スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて広い範囲で観察されました。その中でも、胆振海域の 172、176、179、185 海区および渡島海域の 189 海区に強い反応がみられました。（図１）。

２．魚群反応は、水深 150ｍ～450ｍの範囲に観察されました。とくに水深 350ｍ付近に強い反応がみられましたが（図４）、300ｍ以深の反応は海底からやや浮いた反応となっており、海底に着いた反応は 200～250ｍが中心でした（図２）。なお、胆振沖（登別～白老沖）では、水深 100ｍ以浅（70～80ｍ）にも魚群反応がみられました。

３．海域平均の反応量は、前年同期を下回りましたが、平成 13 年度以降では前年度（平成 21 年度）、平成 19 年度に次ぐ高い水準となっていました（図３）。

４．トロール調査の結果から、水深 200～250ｍ の反応はスケトウダラ成魚（体長 40～45cm）と小型の未成魚（体長 30cm 台前半）、水深 70～80ｍの反応はスケトウダラ成魚（体長 40～45cm）と考えられました（図５）。なお、水深 230ｍ台で漁獲されたスケトウダラの卵巣（たらこ）はまだ完熟前（真子）の状態でしたが、水深 70ｍ台で漁獲されたスケトウダラでは完熟卵（水子）を持った個体もみられました。

５．水温は昨年同時期よりも水深 100～200ｍではやや高かったものの、この水深帯以外では低くなっていました。とくに水深 0～50ｍおよび 200～300ｍでは、平成 19 年度以降では最も低い状況となっていました（図６）。

なお、次回の調査は年明け後の１月中旬（1/12～19）を予定しています。調査終了後にはまたスケトウダラニュースを発行して、分布状況や来遊量をお知らせします。

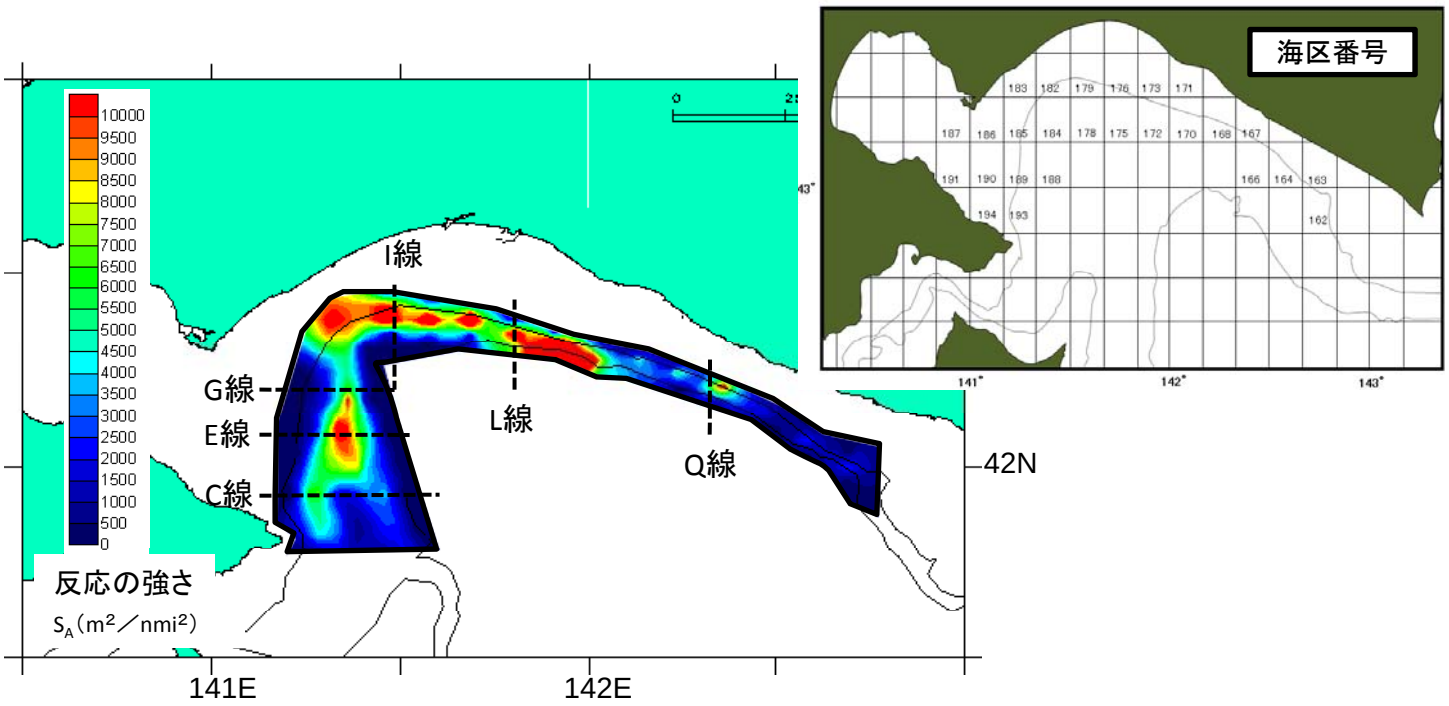

図1　調査海域における魚群の分布

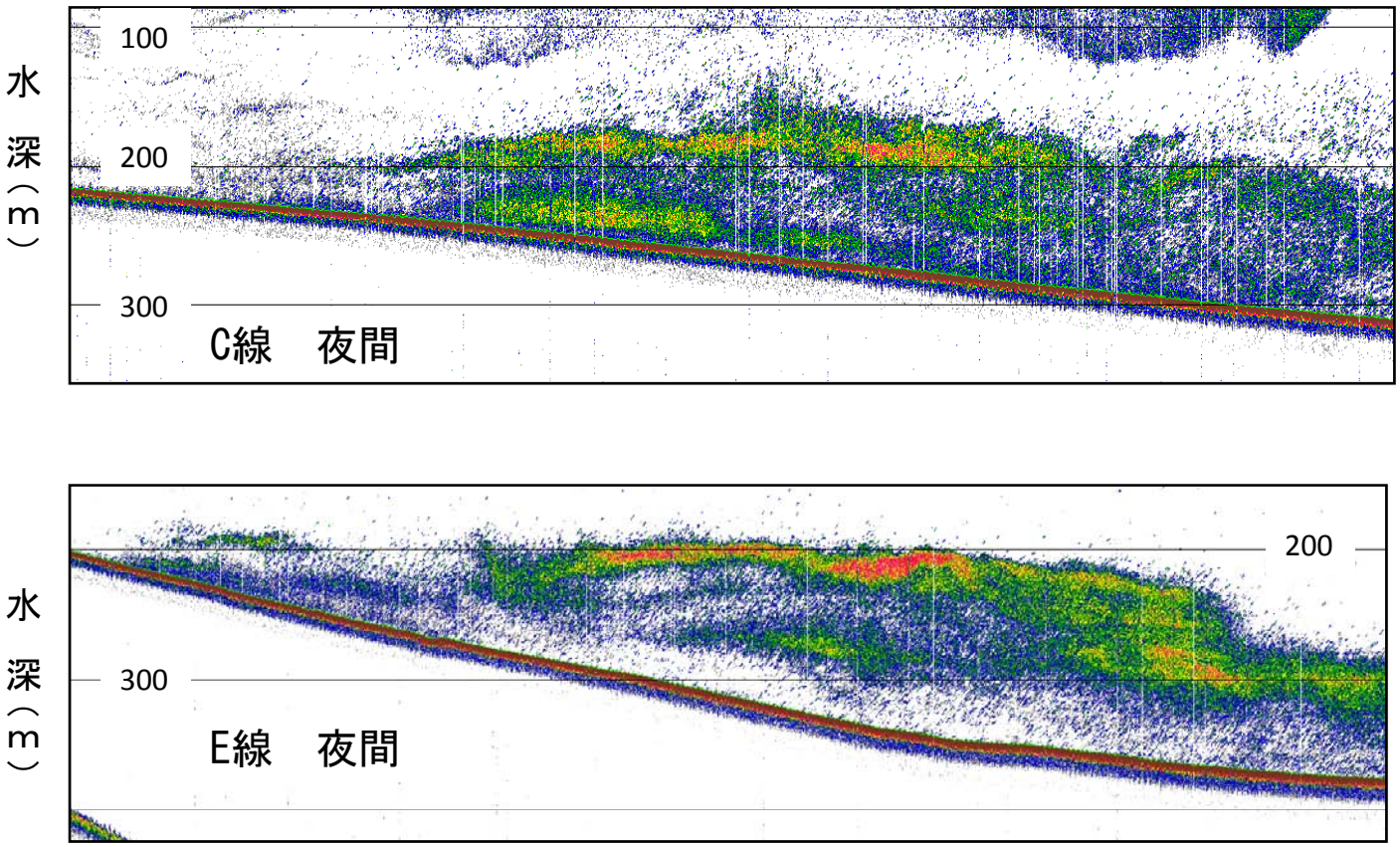

図2　魚群の分布状況（計量魚探画像）

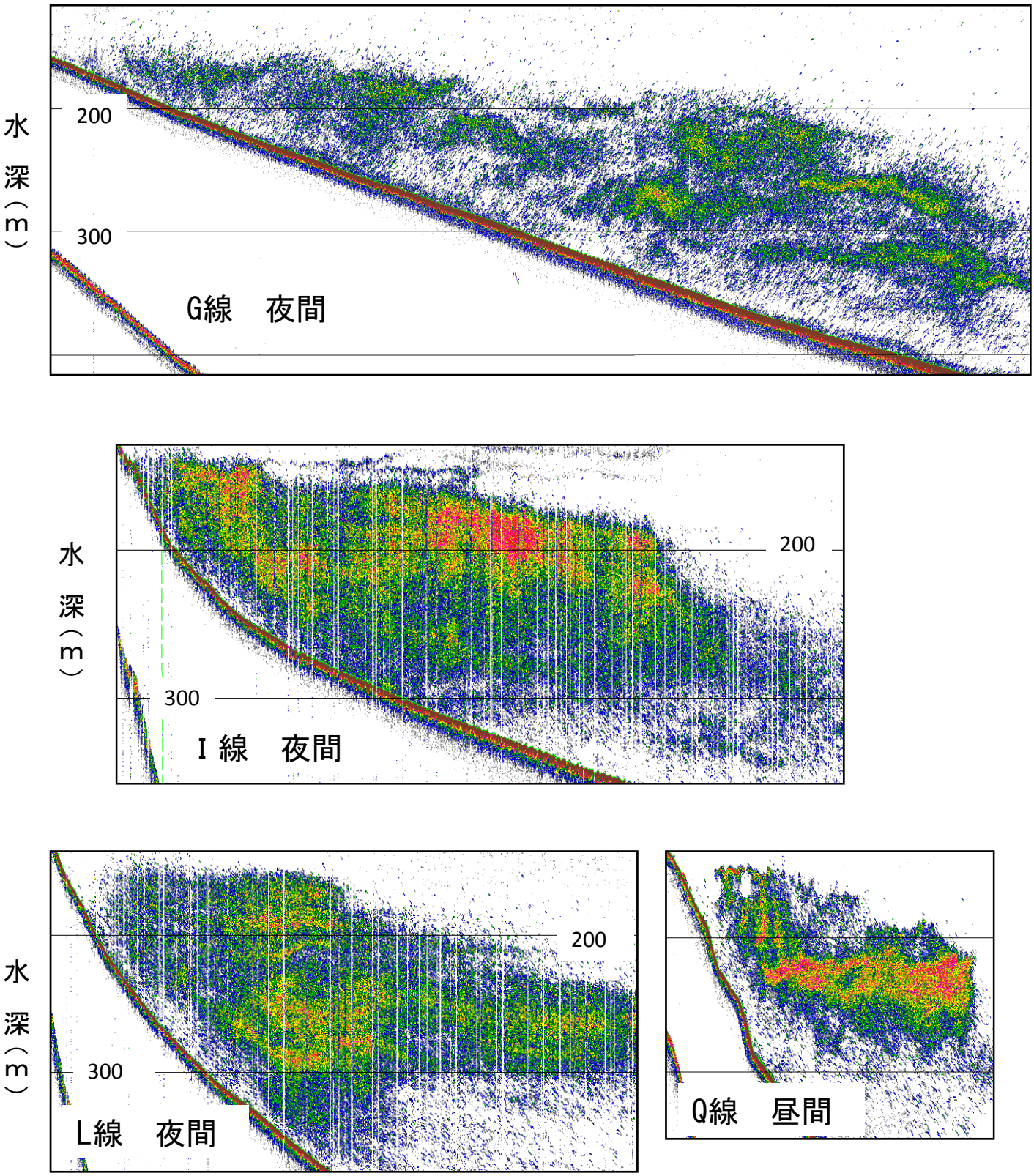

図2　魚群の分布状況（計量魚探画像）つづき

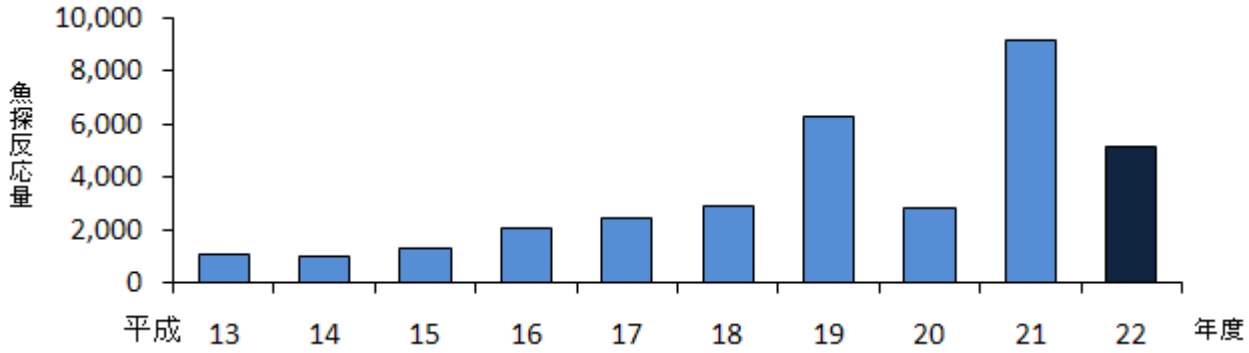

図3　海域平均の魚探反応量（S_A）の推移

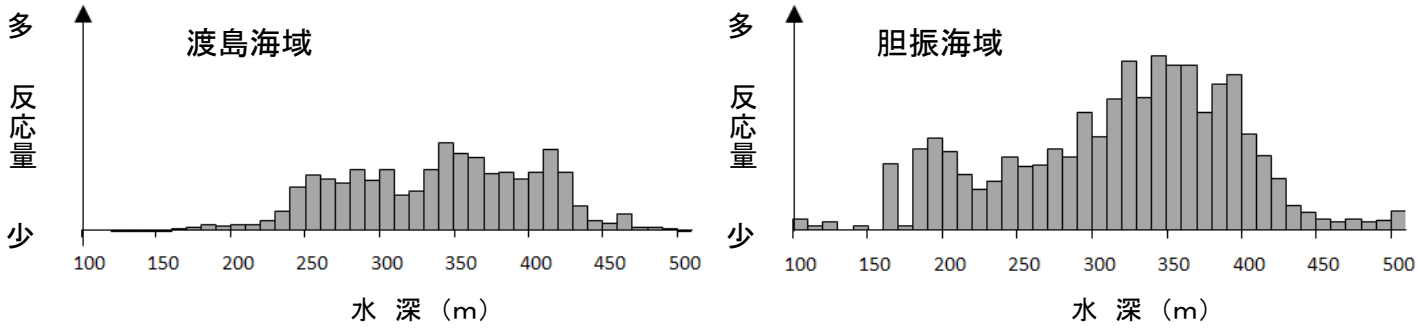

図4　水深別の魚探反応量

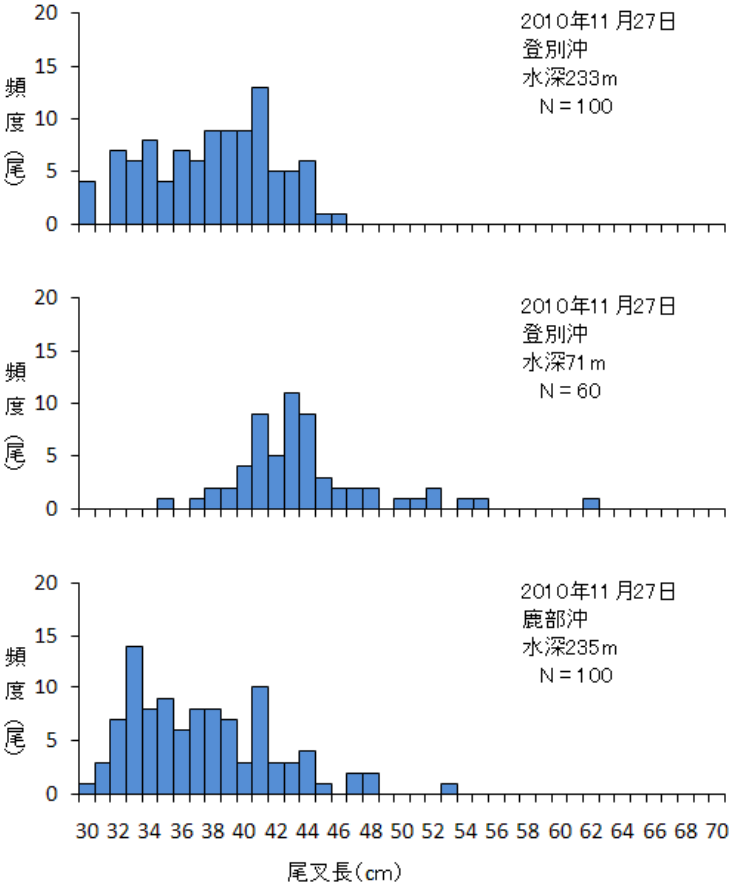

図5　漁獲物の体長組成

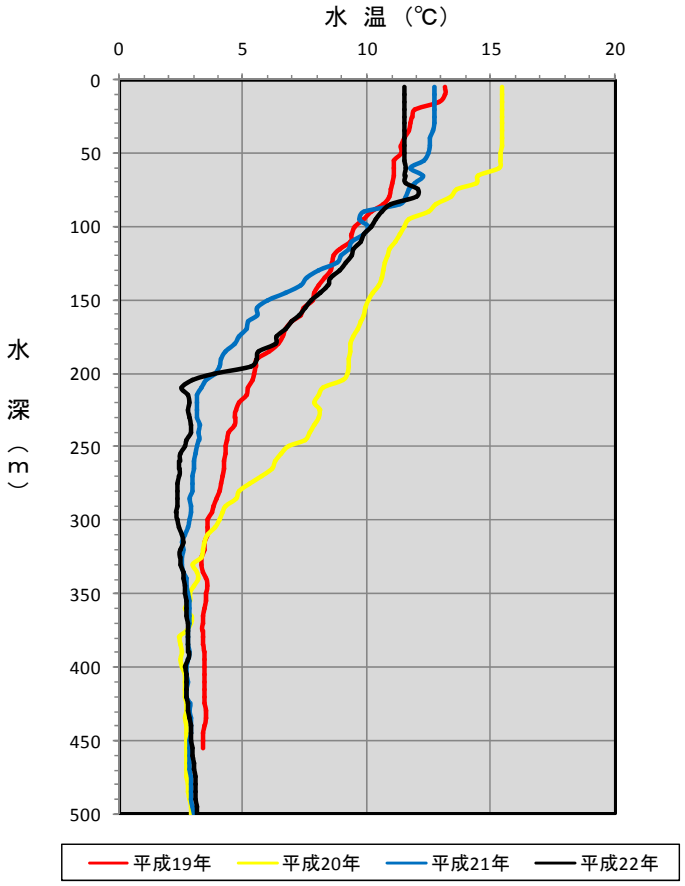

図6　水温の鉛直分布（登別沖）